

青森県立弘前高等学校

住所 弘前市新寺町一の一

生徒数 男子八三〇名 女子二七〇名

部員数 男子十九名 女子十二名

顧問 藤田 研介

弘前高校は来年、創立百十周年を迎えます。総体が目前になつたいま、グラウンド、体育館、武道館では若い歓声が上がっています。空手道部も創部以来三十二年になろうとしています。

空手道部の日常の練習は百練館で行っています。百練館は校門を通つてまもなくの左側にあり、卓球部と共同で使用しています。代々の空手道部の先輩部員、顧問は数々の輝かしい成績を残してくれました。主なもの(一、二位)を上げます。昭和47年総体一位、49年新人戦一位、昭和52年総体男子団体一位、昭和54年総体男子型一位、昭和60年新人戦男子団体型二位、昭和61年春季男子個人組手二位、昭和62年女子個人組手二位、昭和63年新人戦男子個人組手一位、平成元年春季男子個人組手一位、総体男子個人組手二位、平成2年春季男子個人組手一位、総体二位、平成3年春季女子団体組手二位、新人戦女子個人組手二位、東北大会三位、平成4年春季女子団体組手一位

このような伝統のもとに、現在3年生部員が11名、2年生が10名、1年生が11名、合計32名の部員が毎日熱心に活動しています。部員たちは、それぞれが高い目標をもって、文武両道を理想に頑張っています。弘高空手道部での3年間は、将来、何か目に見え

ない形で役立つことを信じています。(顧問 藤田研介)

我が弘前高校空手道部ができたのは昭和三十五年である。代々の先輩たちにより弘高空手部の伝統は守られ、好成績を残し、今に至るのである。

練習場は百練館という所でやっており、周囲は緑が多く、夏の天気の良い日などはその緑の美しさに、外で練習したりするくらいである。百練館では我々空手道部だけでなく、隣では卓球部も練習している。卓球というのは非常に「風」や「日光」を嫌うらしく、自分達の所だけでなく、我々空手道部の方のカーテンをも閉めきり、夏の暑い日などは一種のサウナ状態になり、汗のかく量もより多くなるのである。さらに隣の道場からは剣道部の勇猛なかけ声が聞こえ、我々空手道部員の心を刺激し、こっちの方もやる気が出てきて、そういう意味では練習には良い環境であるのかもしれない。

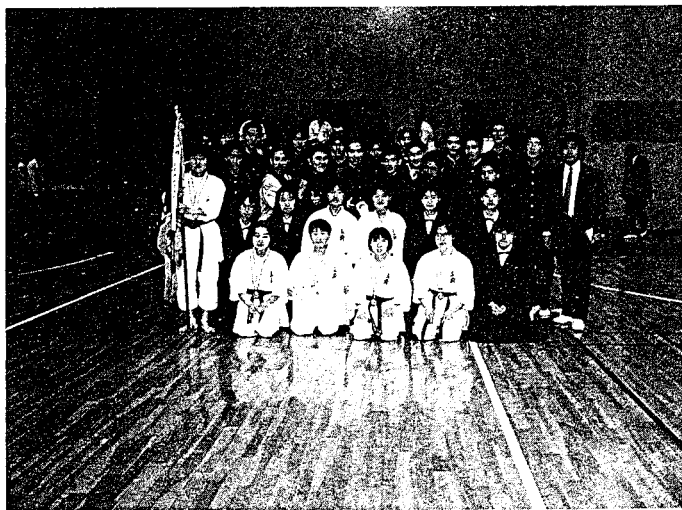
さて、我々の練習は主に部員たちが協力し、中心となつてする自主的なものである。これは弘高の校風にも当てはまるものである。内容は大きっぱに言うると準備運動に始まり、移動稽古、型の練習、組手の移動稽古、等々、そして整理運動をし、部訓をみんなで一緒に言い、挨拶をして終わる。我々の練習の中には「自由練習」というのが組み込まれている。これは「自由」といつているから休んだりしてよいというのではなく、自分の欠点を見直したり、自分に足りない所を補うといった目的でこの練習をやっている。ここにもまた我々の「自主的」な部分も出ていると思う。

しかし、ここで生ずる問題は、部員たちばかりで何でもやってしまおうと自分達の状態を多面的に見れず、画一的に見てしまい、気付かない点が出てくるということである。ここで指導して下さる先生やOBの存在を忘れることができない。この先生、OB、我々部員の関係から、弘高空手道部の伝統が守られ、そしてやってこられたのではないだろうか。我々部員の大半は進学を希望しているため、部活のことについて悩んでいるという事実は否定できないことである。しかし、先輩たちは部活においては素晴らしい成績をあげ、しかも進学していった。また、我が高校の中村校長先生が、「文武両道ができてこそ本当の高校生である。」といつもお話し下さる。これらのことから、今では勉学に励みながら部活に熱心に取り組んでいくという調和のとれた行動を我々部員は目標としてやっているのである。これからも部員どうしで、さらには他校部員とも切磋琢磨し合い、技術面も精神面も向上させるべく頑張っていきたいと思う。(平成4年男子主将 一戸和彦)

私達弘高空手道部女子は現在3年生6名、2年生4名、1年生3名、合計13名である。少人数であるが、弘高は男子生徒に対して女子生徒が三分の一という比率なので、まあまあ的人数といえるだろう。女子空手部員とはいっても、練習はいつも男子と一緒に、腕立てや腹筋などのトレーニングも全て男子と同等の練習メニューをこなしている。そのせいかどうかは知らないが、私達女子部員はみんな心身ともに鍛えられている。しかし、別にたくましいだけが空手部ではない。目標は常に「優勝」であり、そのた

めの努力ならどんなことでも惜しまない。厳しい練習はもちろんのこと、その他にも、お互いに欠点や利点を指摘し合い、技術の向上に努めるのである。

弘高空手道部の女子と男子は大へん仲が良い。もともと、先輩だの後輩だのと区別することもあまりなくて、いつも和気あいあいとした雰囲気につつまれている。3年生を中心として、部員全員が一丸となって大会に向け練習に励んでいるのである。そして



そんな様子を暖かく見守り、指導して下さる顧問の先生
の存在も大きい。弘高では「文武両道」ということが、部活動を行う上でのモットーとされている。我が部でもまた、「学生の本分を尽くすこと」が部訓の一つとして示されている。部員は勉学に励みながら部活動にも力を注いでいる。部活と勉強を両立させてこそ、心身ともに本当の強さが身につくのではないだろうか。弘高空手道部の良い伝統を守り、常に頂点を目指して頑張っていきたいと思うのである。(平成4年女子主将 工藤奈津子)